

月刊 京都

MONTHLY MAGAZINE
KYOTO
since 1950

2012
No.737
DECEMBER 12



魅惑のコーヒー

Wi-Fiスポットを求めて
—コミュニケーションツールが
変わった最近のカフェ事情

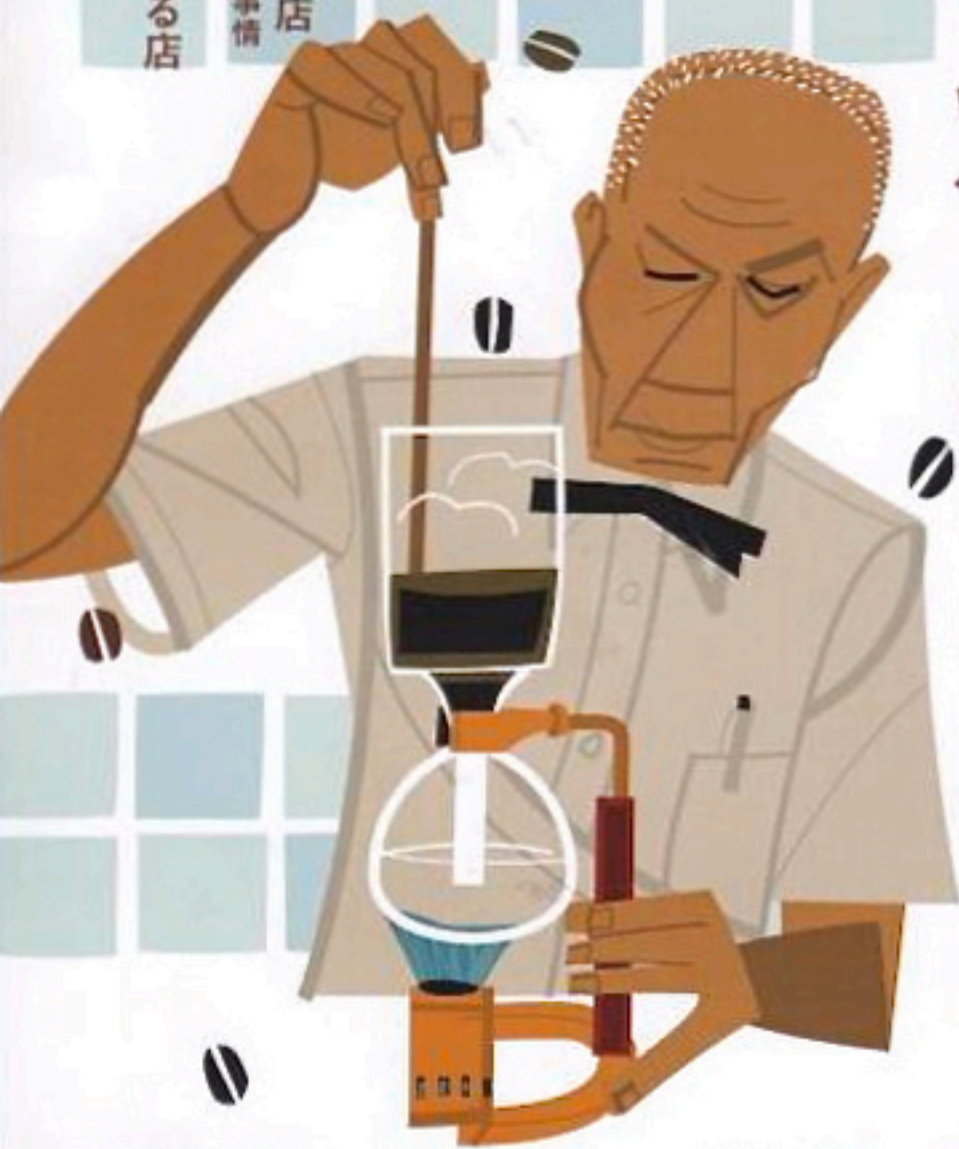
美味なるコーヒータイムを
道具で楽しむ
漆器作家・土井宏友さん

わたしのコーヒートーク
中島貞夫(映画監督・脚本家)
茂山千五郎(大藏流狂言師)、平山みき(歌手)、ほか全10名

あの人
が愛した
コーヒー店
喫茶fe カフェっさ
ほか全6軒

学生にとっての喫茶店
—今ときの若者コーヒー事情

ラテアートが楽しめる店
コーヒー雑学



京都モダンシティと
カフェ
文・海野弘

【好評連載】
藪内家若宗匠 藪内紹由の
「燕庵日記」

麻生圭子
「風のような花物語」

鎌田東二
「靈性の京都学」

水の美味しさに舌鼓



鳥居宏行

貴船 右源太

貴船神社は水の神様を祀っていて、貴船周辺の人たちにとって、とても大事なものなんです。コーヒーも水にこだわっていて、水は貴船神社の奥宮の近くから引っ張ってきたものを使っています。実家がもともと貴船神社に携わっており、ここ何百年もこの場所に住んでいるので、ずっと飲んできているものです。

熱湯ではなくて、その水を使っただけのアイスコーヒーを出しているのですが、苦みが少ないんですよ。アイスコーヒーで使う豆というのは、焙煎が強くてお湯出しにすると苦みが強くなるため、低温で水出しすることによって、渋みや苦み成分、カフェインやタンニンが溶け出す前に抽出が完了できます。だから苦みをほとんど感じない上に、熱湯で出すコーヒーよりも風味が豊かでリキュール系の香りも出てくる。ポタポタとゆっくりなもんだから、一日二〇杯だけなんですけど、うちのお店は

コーヒーはアイスコーヒーがメインだと思っています。

実は私初めて飲んだのも冷たいコーヒーだったんですよ。二〇年ほど前にシアトルに住んでいて、若い頃に初めて飲んだのがスターバックスの甘いコーヒー牛乳だったかな。アメリカにはもともとアイスコーヒーがなくて、飲みたいと思ってもベトナム料理屋で、とつもなくドリップに時間がかかるんですけど、そこでしか飲めなくて。リーマンショックの頃二〇年ぶりに訪れた時にまだあって、相変わらず出てくるのが遅かったのがコーヒーにまつわる一番の思い出かな。

鳥居宏行 (1963年生)

1963年生まれ。株式会社「右源太」代表取締役社長。京都貴船町に生まれ、料理店やホテル等での修行を経て実家でもある右源太・左源太の家業に携わる。事業は旅館業から人材派遣事業、化粧品事業まで多岐に渡る。現在は同志社大学大学院ビジネス研究科(MBA)に在学している。